

スポーツにおける上下関係の必要性に関する研究

1240495 畠木慎之介

指導教員 中村智彰

研究背景

スポーツチームには必ずと言っていいほど上下関係が存在する。私が所属していた野球部にもそうした上下関係はあったが、その厳しすぎる上下関係の必要性に疑問を抱いた。さらに、組織内の複数の人間、時には全員がリーダーシップを執り、それぞれのメンバーが他のメンバーに影響を与え合うという「シェアード・リーダーシップ」が組織のパフォーマンスを向上させることを知り、スポーツチームにおいても同じことが言える可能性があると考えた。

研究目的

本研究は、シェアード・リーダーシップがスポーツチームに対しても良い影響を与えるのかということを明らかにしようとするものであり、「スポーツチームにおいても、シェアード・リーダーシップ型のチームのほうがチームのパフォーマンスは高くなる」という仮説の検証を目的とする。

研究方法

チームスポーツ経験者を対象に、自身の所属するチームが採用するリーダーシップ形態（垂直型かシェアード・リーダーシップ型か）とチームのパフォーマンス（成績）についてアンケート調査を実施し、そのデータを統計的に分析した。

分析結果

シェアード・リーダーシップ型のチームのほうがチームの成績が良くなることが明らかになった。さらにそれは、 t 検定による統計分析でも有意な結果であると示された。

考察・結論

スポーツ組織においてもシェアード・リーダーシップのほうが垂直型のリーダーシップよりも優秀であることが示され、仮説は支持された。この結果から、上下関係がチームの成績向上の妨げになっている可能性がある結論付けられた。